

東京大学経済学図書館所蔵資料のデジタルデータについて

- (1) この画像データは、東京大学経済学図書館が所蔵する資料のうち、有価証券報告書をデジタル撮影したものです。
- (2) 利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化により、一部、文字の写りが悪いものを含んでいます。また、一部、オンライン公開に適さないと判断し、墨消処理した部分があります。
- (5) この画像データに関する質問等は東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

連 結 財 務 諸 表

(昭和 55 年 6 月 27 日 提出の有価証券報告書に対する証券取引法第 24 条第 3 項に基づく添付書類)

連結会計年度 (自 昭和 53 年 4 月 1 日)
(至 昭和 54 年 3 月 31 日)

(自 昭和 54 年 4 月 1 日)
(至 昭和 55 年 3 月 31 日)

大 蔵 大 臣 殿

昭和 55 年 7 月 16 日 提出

会 社 名	帝 人 有 限 公 司
英 訳 名	TEI N I N L I M I T E D
代表者の役職氏名	代表取締役社長 榊 武 夫



本店の所在の場所 大阪市東区南本町 1 丁目 11 番地

電話番号 大阪 (268) 3200 (直通) 連絡者 経 理 部 長 川 原 峰 二

もよりの連絡場所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 1 番 1 号 (飯野ビル内)

電話番号 東京 (506) 4402 (直通) 連絡者 経 理 部 次 長 佐 久 間 数 廣

連 結 財 務 諸 表 に つ い て

1. 以下に掲げる連結財務諸表は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年10月30日大蔵省令第28号）に準拠して作成した。
2. この連結財務諸表については、証券取引法第193条の2の規定に基づき、監査法人朝日会計社の監査を受け、次のとおり昭和54年4月1日から昭和55年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表に係る監査報告書を受領した。

監 査 報 告 書

帝 人 株 式 会 社

代表取締役社長 徳 末 知 夫 殿

昭和55年7月15日

監査法人 朝 日 会 計 社

代表社員
関与社員

公認会計士

河野 保 

関与社員

公認会計士

田村 和之 

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、以下に掲げられている帝人株式会社の昭和54年4月1日から昭和55年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結剰余金計算書について監査を行った。

この監査に当たり当監査法人は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、連結財務諸表について会社の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠し、かつ、下記の事項を除いて前連結会計年度と同一の基準にしたがって継続して適用されており、また、連結財務諸表の表示方法は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号）」の定めるところに準拠しているものと認めた。

記

在外連結子会社の財務諸表については、従来、属性法によって邦貨換算していたが、当連結会計年度から「外貨建取引等会計処理基準（企業会計審議会昭和54年6月26日）」により邦貨換算することとした。（該当会社は1社であり、決算日レート法によっている。注記事項等2-(2)参照）

よって、当監査法人は、上記の連結財務諸表が、帝人株式会社及び連結子会社の昭和55年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する連結会計年度の経営成績を適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人または関与社員との間には公認会計士法により記載すべき利害関係はない。

以 上

当監査法人の主たる事務所

監査法人 朝 日 会 計 社

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 富士ビルディング

関与社員が主として執務した事務所

監査法人 朝日会計社大阪支社

大阪市北区梅田1丁目3番1-500号 大阪駅前第一ビル

1. 連結貸借対照表

(単位 百万円)

科 目		昭和54年3月31日現在		昭和55年3月31日現在	
		金 額	比 率	金 額	比 率
(資 産 の 部)			%		%
Ⅰ 流 動 資 産					
1.	現 金 及 び 預 金 ※3	5 9,9 4 6		5 7,5 2 2	
2.	受取手形及び売掛金 ※1※3	6 1,9 0 1		8 2,2 4 4	
3.	非連結子会社及び関連会社 受取手形及び売掛金 ※1	2 8 6 1		4,8 0 3	
4.	有 価 証 券 ※3	9,5 5 2		1 6,3 3 1	
5.	た な 卸 資 産	4 1,8 9 3		5 9,0 1 1	
6.	短 期 貸 付 金	4,1 9 5		3,6 3 8	
7.	非連結子会社及び関連会社 短期貸付金	2 1,8 1 8		1 8,8 4 0	
8.	その他の流動資産	9,3 4 7		1 1,1 1 8	
9.	貸 倒 引 当 金	△ 2,8 6 7		△ 2,3 3 6	
	流 動 資 産 合 計	2 0 8,6 4 6	4 5.7	2 5 1,1 7 1	5 1.2
Ⅱ 固 定 資 産					
(1)	有 形 固 定 資 産 ※2※3※4※5				
1.	建 物 及 び 構 築 物	3 2,5 1 5		3 0,0 8 4	
2.	機 械 及 び 装 置	5 7,2 0 1		6 3,7 3 1	
3.	土 地	1 4,8 7 4		1 5,4 1 1	
4.	建 設 仮 勘 定	3,3 6 7		8,8 7 4	
5.	その他の有形固定資産	1,8 8 0		2,0 5 5	
	有 形 固 定 資 産 合 計	1 0 9,8 3 7		1 2 0,1 5 5	
(2)	無 形 固 定 資 産 ※4				
1.	施 設 利 用 権 等	1,1 0 5		9 3 2	
	無 形 固 定 資 産 合 計	1,1 0 5		9 3 2	
(3)	投資その他の資産				
1.	投 資 有 価 証 券 ※3	5 6,9 8 9		4 3,2 9 0	
2.	非連結子会社及び関連会社 株式 ※3	2 9,4 8 3		2 9,5 6 2	
3.	長 期 貸 付 金	1 1,1 5 7		1 2,3 0 2	
4.	非連結子会社及び関連会社 長期貸付金	2 5,2 0 0		2 3,8 0 2	
5.	その他の投資その他の資産 ※3	1 2,6 7 9		1 1,9 0 3	
6.	貸 倒 引 当 金	△ 3,2 9 3		△ 5,1 7 1	
7.	株 式 評 価 性 引 当 金	△ 1 7 9		△ 9 7	
	投資その他の資産合計	1 3 2,0 3 6		1 1 5,5 9 1	
	固 定 資 産 合 計	2 4 2,9 7 8	5 3.3	2 3 6,6 7 8	4 8.3
Ⅲ 繰 延 資 産					
1.	開 業 費 等	4,5 6 8		2,4 3 4	
	繰 延 資 産 合 計	4,5 6 8	1.0	2,4 3 4	0.5
資 産 合 計		4 5 6,1 9 2	1 0 0.0	4 9 0,2 8 3	1 0 0.0

(単位 百万円)

科 目		連結会計年度	昭和54年3月31日現在		昭和55年3月31日現在	
		金 額	比 率	金 額	比 率	
(負 債 の 部)				%		%
I 流 動 負 債						
1. 支払手形及び買掛金			54,266		73,754	
2. 非連結子会社及び関連会社 支払手形及び買掛金			4,274		7,603	
3. 短期借入金			90,091		86,219	
4. 一年内返済社債及び長期借入金			35,640		40,400	
5. 未払費用			5,954		7,632	
6. 預り金			11,087		10,811	
7. 事業税等引当金			539		844	
8. 法人税等引当金			1,392		5,638	
9. その他の流動負債			17,526		21,018	
流動負債合計			220,769	48.4	253,919	51.8
II 固 定 負 債						
1. 社 債			18,400		15,500	
2. 転換社債			14,960		10,247	
3. 長期借入金			86,200		80,139	
4. 退職給与引当金			8,935		10,234	
5. その他の固定負債			5,471		5,352	
固定負債合計			133,966	29.4	121,472	24.8
III 特 定 引 当 金						
1. 海外投資等損失準備金			2,753		2,626	
2. 価格変動準備金			159		171	
3. 特別償却準備金			363		326	
4. 公害防止準備金			238		246	
5. 中小企業等海外市場開拓準備金			42		53	
特定引当金合計			3,555	0.8	3,422	0.7
IV 連結調整勘定			128	—	100	—
V 為替換算調整勘定			—	—	3,728	0.8
VI 少数株主持分			5,865	1.3	8,455	1.7
負債合計			364,283	79.9	391,096	79.8
(資 本 の 部)						
I 資 本 金			34,436	7.5	35,922	7.3
II 資本準備金 ※6			8,103	1.8	9,275	1.9
III 利益準備金			6,847	1.5	7,014	1.4
IV その他の剰余金			42,549	9.3	47,003	9.6
			91,935	20.1	99,214	20.2
V 子会社の所有する親会社株式			△ 26	—	△ 27	—
資本合計			91,909	20.1	99,187	20.2
負債資本合計			456,192	100.0	490,283	100.0

2. 連結損益計算書

(単位 百万円)

科 目	昭和53年4月 1日から 昭和54年3月31日まで			昭和54年4月 1日から 昭和55年3月31日まで		
	金 額		比 率	金 額		比 率
I 売 上 高		331,089	100.0%		389,279	100.0%
II 売 上 原 価 ※7		267,953	80.9		309,274	79.4
売 上 総 利 益		63,136	19.1		80,005	20.6
III 販売費及び一般管理費 ※8		39,645	12.0		45,205	11.6
営 業 利 益		23,491	7.1		34,800	9.0
IV 営 業 外 収 益						
1. 受 取 利 息	7,646			7,444		
2. 非連結子会社からの受取利息	53			—		
3. 受 取 配 当 金	2,533			3,295		
4. 有 価 証 券 売 却 益	2,638			—		
5. 雑 益	1,873	14,743	4.5	1,899	12,638	3.2
V 営 業 外 費 用						
1. 支払利息及び割引料	18,262			20,492		
2. 社 債 利 息	2,874			2,623		
3. 雑 損	3,339	24,475	7.4	2,549	25,664	6.6
経 常 利 益		13,759	4.2		21,774	5.6
VI 特 別 利 益						
1. 固 定 資 産 売 却 益	3,751			326		
2. 投資有価証券売却益 ※9	2,346			883		
3. 為 替 換 算 差 益	953			—		
4. その他の特別利益	9	7,059		89	1,298	
VII 特 別 損 失						
1. 投資有価証券評価損 ※10	3,947			864		
2. 構造改善費用 ※11	9,169			201		
3. 貸倒引当金繰入 ※12	3,500			1,428		
4. 貸 倒 損 失 ※13	1,138			—		
5. 退職給与引当金繰入	1,441			—		
6. 固 定 資 産 売 却 損	870			343		
7. 過年度損益修正 ※14	—			498		
8. その他の特別損失	556	20,621		191	3,525	
税金等調整前当期純利益		197			19,547	
VIII 特 定 引 当 金 戻 入 ※15		6,921			164	
IX 特 定 引 当 金 繰 入 ※16		12			31	
税金等調整前当期利益		7,106			19,680	
法 人 税 等 ※17		2,656			8,035	
少数株主損益		損 679			損 1,427	
連結調整勘定当期償却額		益 46			益 28	
当 期 利 益		3,817			10,246	

3. 連結剰余金計算書

(単位 百万円)

連結会計年度 科 目	昭和53年4月 1日から 昭和54年3月31日まで		昭和54年4月 1日から 昭和55年3月31日まで	
	金 額		金 額	
I その他の剰余金期首残高		4 0, 6 1 4		4 2, 5 4 9
II その他の剰余金増加高				
1. 新規連結子会社の過年度分	7 0 6	7 0 6	—	—
III その他の剰余金減少高				
1. 利益準備金繰入額	2 4		1 6 7	
2. 配 当 金	2, 5 5 1		2, 7 5 5	
3. 役員賞与	1 3		4 3	
4. 新規連結子会社の過年度分	—	2, 5 8 8	3 1	2, 9 9 6
IV 当期利益		3, 8 1 7		1 0, 2 4 6
V 為替換算調整額 ※18		—		△ 2, 7 9 6
VI その他の剰余金期末残高		4 2, 5 4 9		4 7, 0 0 3

注 記 事 項 等

昭和53年4月1日から昭和54年3月31日まで

1. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社は帝人油化(株)、帝人ハーキュレス(株)、P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation、帝人加工糸(株)、帝人化成(株)、帝人教育システム(株)の6社である。このうち帝人化成(株)は、当年度において関連会社から子会社になったものであり、帝人加工糸(株)及び帝人教育システム(株)は、当年度において重要性の観点から連結の範囲に含めたものである。

非連結子会社は、売上高、総資産の観点からいずれも小規模であり、かつ全体的にも重要性に乏しく連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていない。その数は49社である(帝人小西六フィルム(株)、(株)テイジン・メンズ・ショップ、(株)ウィングル、帝人アドバンストプロダクツ(株)、帝人エンジニアリング(株)他)。

(2) 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社に対する投資については、「連結財務諸表の用語様式及び作成方法に関する規則」附則2により持分法を適用していない。関連会社は69社である(帝人アグロケミカル(株)、帝人殖産(株)、帝人製機(株)、Safron-Teijin S. A. Industries Brasileires De Fibras、Teijin Polyester (Thailand) Limited 他)。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation については、その決算期が毎年6月末日であるため、毎年12月末日をもって中間決算日とし、正規の決算に準ずる仮決算を行っている。

昭和54年4月1日から昭和55年3月31日まで

1. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社は帝人油化(株)、帝人ハーキュレス(株)、P. T. Teijin Indonesia Fiber Coporation、帝人加工糸(株)、帝人化成(株)、帝人教育システム(株)、帝人アセテート(株)の7社である。このうち帝人アセテート(株)は、当年度において重要性の観点から連結の範囲に含めたものである。

非連結子会社は、売上高、総資産の観点からいずれも小規模であり、かつ全体的にも重要性に乏しく連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていない。その数は45社である(帝人小西六フィルム(株)、(株)テイジン・メンズ・ショップ、(株)ウィングル、帝人アドバンストプロダクツ(株)、帝人エンジニアリング(株)他)。

(2) 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社に対する投資については、「連結財務諸表の用語様式及び作成方法に関する規則」附則2により持分法を適用していない。関連会社は68社である(帝人アグロケミカル(株)、帝人殖産(株)、帝人製機(株)、Safron-Teijin S. A. Industries Brasileires De Fibras、Teijin Polyester (Thailand) Limited 他)。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation については、その決算期が毎年6月末日であるため、毎年12月末日をもって中間決算日とし、正規の決算に準ずる仮決算を行っている。但し、当該会社の仮決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上、必要な調整を行っている。

(4) 会計処理基準に関する事項

① たな卸資産の評価基準

低価基準（一部子会社は原価基準）

② 有価証券の評価基準

上場有価証券 … 低価基準（但し、一部子会社は原価基準）

非上場有価証券 … 原価基準（但し、一部については評価損を計上している）

③ 有形固定資産の圧縮記帳

有形固定資産について、取得価額から租税特別措置法に基づく圧縮額 2005 百万円を控除している。

④ 有形固定資産の減価償却の方法

国内会社 … 定率法（但し、一部子会社は定額法）

在外会社 … 定額法

⑤ 貸倒引当金の計上基準

原則として、法人税法の規定に準じて引当計上することとしているが、債権の回収可能性等に応じ所要の追加引当を行っている。又在外会社は相手先毎に回収不能見込額を引当てることとしている。なお、連結会社間債権に対応する引当金は消去している。

⑥ 開 業 費

P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporationにおいて開業準備段階の費用（主として長期借入金に係る支払金利）を開業費に計上しており、長期借入金の使途である固定資産の耐用年数と同期間である 10 年で均等償却している。

⑦ 外貨建債権及び債務の換算方法

短期の外貨建債権及び債務 … 決算日の為替相場により換算

長期の外貨建債権及び債務 … 取得時又は発生日の為替相場により換算

(4) 会計処理基準に関する事項

① たな卸資産の評価基準

同 左

② 有価証券の評価基準

同 左

③ 有形固定資産の圧縮記帳

同 左

④ 有形固定資産の減価償却の方法

国内会社 … 定率法（一部子会社においては定額法から定率法に変更したが、その影響はきわめて軽微である。）

在外会社 … 定額法

⑤ 貸倒引当金の計上基準

国内会社は、売上債権などに係る貸倒損失に備えるため、債権金額の一定割合相当額（税法規定の法定繰入率に基づく限度相当額）を繰入計上しているほか、財政状態が著しく悪化していると見込まれる取引先の債権について、回収不能見込額を繰入計上している。又在外会社は、相手先毎に回収不能見込額を引当てることとしている。なお、連結会社間債権に対応する引当金は消去している。

⑥ 開 業 費

P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporationにおいて開業準備段階の費用（主として長期借入金に係る支払金利）を開業費に計上しており、10 年で均等償却している。

⑦ 外貨建債権及び債務の換算方法

同 左

⑧ 負債性引当金の計上基準

事業税等引当金 … 事業税及び事業所税の納付
予定額を計上している。

退職給与引当金 … 国内会社は期末における退
職給与の自己都合要支給額
の50%相当額を計上して
いる。なお、在外会社には
退職金制度がない。

⑨ 価格変動準備金の設定方法

親 会 社 … 利益処分方式

国内連結子会社 … 特定引当金方式

(5) 投資勘定と資本勘定との相殺消去に関する事項

親会社の連結子会社に対する投資勘定と、これに
対応する連結子会社の資本勘定とはその取得日を
基準として相殺消去している。

なお、当年度において関連会社から子会社になっ
た会社に係る投資消去差額は、その発生原因が不
明であるので、連結調整勘定として処理し、5年
間で償却している。

(6) 未実現損益の消去に関する事項

親会社又は親会社が議決権の100%を所有する連
結子会社から取得した資産に係る未実現利益につ
いては、その全額を消去し、親会社が全額負担し
ている。また、少数株主の存在する連結子会社か
ら取得した資産に係る未実現利益については、持
分比率に応じて消去額を負担している。なお、未
実現損失については消去しないこととしている。
減価償却資産に係る未実現利益消去額については、
減価償却費の修正を行っている。

(7) 在外連結子会社の財務諸表項目の換算に関する
事 項

在外連結子会社の財務諸表項目については、次の
とおりいわゆる属性法によって邦貨に換算してい
る。(当年度に於けるこの換算による差益953
百万円を特別利益の為替換算差益に表示している。)

⑧ 負債性引当金の計上基準

同 左

⑨ 価格変動準備金の設定方法

親 会 社 … 利益処分方式

国内連結子会社 … 特定引当金方式

(但し、一部子会社は利
益処分方式)

(5) 投資勘定と資本勘定との相殺消去に関する事項

親会社の連結子会社に対する投資勘定と、これに
対応する連結子会社の資本勘定とはその取得日を
基準として相殺消去している。

なお、投資消去差額は、その発生原因が不明であ
るので、連結調整勘定として処理し、5年間で償
却している。

(6) 未実現損益の消去に関する事項

同 左

(7) 在外連結子会社の財務諸表項目の換算に関する
事 項

在外連結子会社の財務諸表項目の邦貨換算につい
ては、「外貨建取引等会計処理基準(昭和54年
6月26日企業会計審議会)」に定める方法によ
ることとしている。なお、該当会社は1社であり、
長期金銭債権債務及び非貨幣性項目の重要性が小
さいので、次のとおりいわゆる決算日レート法に
より邦貨に換算している。

- ① 取引発生日の為替相場で換算する財務諸表項目
原価で評価されているたな卸資産及び有価証券、
前払費用、有形固定資産、無形固定資産、繰延
資産及びこれらの費用化項目、資本金及び剰余
金。
- ② 決算日の為替相場で換算する財務諸表項目
①に記載の貸借対照表項目以外の貸借対照表項
目。
- ③ 期中平均の為替相場で換算する財務諸表項目
①に記載の損益計算書項目以外の損益計算書項
目。
- (8) 利益処分項目等の取扱いに関する事項
連結剰余金計算書については連結会計年度中に確
定した連結会社の利益処分に基づいて作成してい
る。連結子会社の利益準備金については、株式取
得日以降に発生した連結持分を連結利益準備金に
含めている。
- (9) 法人税等の期間配分の処理に関する事項
企業会計上の利益と税務上の課税所得の差異に係
る法人税等については期間配分を行っていない。

2. 会計処理基準の変更に関する事項

- (1) 親会社は、海外投資等損失準備金について従来、
税法の規定に従って取崩してきたが、当年度にお
いては、このほか現時点の状況から判断して株式
の価格の下落による損失の恐れがなくなったもの
を取崩すこととした。これにより当年度の取崩額
は 6,539 百万円増加した。
- (2) ———

- ① 発生日の為替相場で換算する財務諸表項目
資本金及び資本準備金
- ② 決算日の為替相場で換算する財務諸表項目
①に記載する項目以外の財務諸表項目
- ③ 換算によって生じた換算差額は為替換算調整勘
定に計上する。
- (8) 利益処分項目等の取扱いに関する事項
同 左
- (9) 法人税等の期間配分の処理に関する事項
同 左

2. 会計処理基準の変更に関する事項

- (1) ———
- (2) 在外連結子会社の財務諸表項目の邦貨換算につい
ては、従来いわゆる属性法によっていたが、当連
結会計年度から「外貨建取引等会計処理基準」に
定める方法によることとした。（該当会社は 1 社
であり、決算日レート法によっている。）この変
更により前年度と同一の方法によった場合に比し
税金等調整前当期利益は 5,358 百万円、当期利益は
4,224 百万円、その他の剰余金期末残高は 1,428
百万円増加している。（1-(7) 参照）

3. 連結財務諸表項目に関する注記

※ 1. 受取手形割引高は、36,483百万円である。

※ 2. 有形固定資産から直接控除した減価償却引当金は19,200.6百万円である。

※ 3. 担保提供資産

預 金	216百万円
受 取 手 形	101百万円
有 価 証 券	599百万円
投資有価証券	10,473百万円
非連結子会社及び関連会社株式	4,147百万円
有形固定資産	9,556百万円

上記の他、親会社は企業担保権設定に伴い、親会社の総資産を社債の担保に供している。

※ 4. —

3. 連結財務諸表項目に関する注記

※ 1. 受取手形割引高は、35,851百万円である。

(非連結子会社及び関連会社分 1,406百万円を含む)

※ 2. 有形固定資産から直接控除した減価償却引当金は20,129.5百万円である。

※ 3. 担保提供資産

預 金	216百万円
有 価 証 券	656百万円
投資有価証券	9,827百万円
非連結子会社及び関連会社株式	3,182百万円
有形固定資産	9,233百万円
その他の投資その他の資産	872百万円

上記の他、親会社は企業担保権設定に伴い、親会社の総資産を社債の担保に供している。

※ 4. 在外連結子会社である P. T. Teijin Indonesia

Fiber Corporation は当年度において、現地通貨であるルピアの大幅切下げを機として、インドネシア共和国の法令に基づき、1979年1月1日に固定資産の再評価を行った。

その再評価差額は次のとおりである。

建物及び構築物	972百万円
機械及び装置	13,986百万円
その他の有形固定資産	35百万円
有形固定資産合計	14,993百万円
無形固定資産	187百万円
合 計	15,180百万円

(上記金額はいずれも再評価日のレートによる邦貨換算額である。)

この再評価差額 15,180百万円とルピア切下げに伴う外貨建長期借入金に係る為替換算差額 8,960百万円とを相殺し、その差額 6,220百万円のうち、4,130百万円を資本金に組入れ、残額を資本剰余金として計上している。なお、再評価の結果、従前の耐用年数(※ 5.参照)によって計算した場合の当期減価償却費は、1,296百万円(決算日レートによる邦貨換算額)増加している。

※ 5 ———

※ 6 ———

※ 7. 売上原価には低価基準による製品評価減に係る金額が次のとおり含まれている。

前期製品評価減戻入	5 7 3 百万円
当期製品評価減	2 1 1 百万円
差引売上原価減少	<u>3 6 2 百万円</u>

※ 8. 販売費及び一般管理費の内訳は次のとおりである。

1. 運賃諸掛	6.665 百万円
2. 給与賃金	6.669 "
3. 賞与一時金	1.910 "
4. 退職給与引当金繰入	613 "
5. 減価償却費	771 "
6. 技術研究費	7.833 "
7. 販売手数料	2.569 "
8. 宣伝広告費	1.344 "
9. 賃借料	1.334 "
10. その他の経費	9.937 "
合 計	<u>39.645 百万円</u>

なお、合計額 39.645 百万円のうち、販売費は約 34 % であり、一般管理費は約 66 % である。

※ 9. ———

※ 10. 投資有価証券評価損には非連結子会社株式の評価損 812 百万円が含まれている。

※ 11. 構造改善の一環としての従業員退職に伴う特別退職金等である。

※ 5. P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation は、インドネシア政府のガイドラインに従い有形固定資産の耐用年数を延長した。この耐用年数の延長に伴い、再評価後において従前の耐用年数によった場合に比し、当期減価償却費は 650 百万円減少している。

※ 6. P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation の資本金及び資本剰余金について、再評価日のレートにより邦貨換算し、その親会社持分相当額と親会社の投資額との差額 774 百万円を連結上、資本準備金に含めて表示した。

※ 7. 売上原価には低価基準による製品評価減に係る金額が次のとおり含まれている。

前期製品評価減戻入	2 1 1 百万円
当期製品評価減	4 2 0 百万円
差引売上原価増加	<u>2 0 9 百万円</u>

※ 8. 販売費及び一般管理費の内訳は次のとおりである。

1. 運賃諸掛	7.732 百万円
2. 給与賃金	6.653 "
3. 賞与一時金	2.848 "
4. 退職給与引当金繰入	362 "
5. 減価償却費	762 "
6. 技術研究費	9.138 "
7. 販売手数料	3.087 "
8. 宣伝広告費	1.803 "
9. 賃借料	1.418 "
10. 事業税等引当金繰入	928 "
11. その他の経費	10.474 "
合 計	<u>45.205 百万円</u>

なお、合計額 45.205 百万円のうち、販売費は約 33 % であり、一般管理費は約 67 % である。

※ 9. 連結子会社である P. T. Teijin Indonesia Fiber Corporation の株式売却益 514 百万円が含まれている。これにより親会社の当該会社に対する持株比率は 80 % から 65.81 % に減少した。

※ 10. 投資有価証券評価損には非連結子会社株式の評価損 299 百万円が含まれている。

※ 11. 同 左

※ 12. ———

※ 13. 貸倒損失 1,138 百万円は、すべて非連結子会社
に対するものである。

※ 14. ———

※ 15. 特定引当金戻入の内訳は次のとおりである。

海外投資等損失準備金戻入	6,647 百万円
公害防止準備金戻入	138 "
価格変動準備金戻入	68 "
特別償却準備金戻入	68 "
合 計	<u>6,921 百万円</u>

※ 16. 特定引当金繰入の内訳は次のとおりである。

中小企業等海外市場開拓準備金繰入	12 百万円
------------------	--------

※ 17. 法人税等には住民税額を含む。

※ 18. ———

※ 19. 保 証 債 務

他社の銀行借入に対して行っている保証債務	29,071 百万円
----------------------	------------

※ 12. 非連結子会社に対する貸倒引当金繰入 900 百
万円が含まれている。

※ 13. ———

※ 14. 過年度に係る人件費の追給分である。

※ 15. 特定引当金戻入の内訳は次のとおりである。

海外投資等損失準備金戻入	127 百万円
特別償却準備金戻入	37 "
合 計	<u>164 百万円</u>

※ 16. 特定引当金繰入の内訳は次のとおりである。

中小企業等海外市場開拓準備金繰入	11 百万円
価格変動準備金繰入	12 "
公害防止準備金繰入	8 "
合 計	<u>31 百万円</u>

※ 17. 同 左

※ 18. 為替換算調整額は、当連結会計年度における在
外連結子会社財務諸表の剰余金項目の邦貨換算
方法の変更によって計上した換算差額である。
この金額は、在外連結子会社の「その他の剰余
金期首残高」について生じた変更による減少額
である。

※ 19. 保 証 債 務

他社の銀行借入に対して行っている保証債務	38,328 百万円
----------------------	------------